

題名 広島平和記念式典派遣事業に参加して考えること。

鹿沼市立加蘇中学校 (氏名) 大貫 葵生



3日間という短い期間でしたが、派遣事業に参加することができて、戦争がひきおこす悲劇と被害について学び、平和に対する自分の意識や知識を広げることができました。自分の目で原爆ドームや資料館の展示物を見て、原爆が人々へもたらした莫大な被害や家族を失うことの悲しさを痛感しました。また、今過ごしている日々はけっしてあたりまえではないこと、言葉では表現しきれないほど命は尊くはかないものだとすることを再認識しました。被爆した方々の遺品やその当時の悲惨さをありのままにうつした写真はとても印象強く、心に残っています。私たちと同じ年の子、それよりも小さい子たちからお年寄りまで、約33万人の人々が亡くなった、という事実をもっと多くの人に、国までも越えて知ってほしいと思いました。慰霊碑に刻まれた「安らかに眠って下さい過ちは繰返させぬから」という碑文は、私の胸に深く突き刺さりました。戦争を過去のこととなおざりにするのではなく、自分事のように捉えてもらえるよう、広島で学んだこと、感じたこと、それから考えたことをたくさんの人に伝えて広めたいです。

題名 ロシアのウクライナ侵攻に対して考えること。

鹿沼市立加蘇中学校 (氏名) 大貫 葵生

今年の2月から現在まで続いているウクライナ侵攻ですが、私が一番衝撃的だと思ったのは、小さな子どもが「お父さん、お父さん」と大声をあげて泣いていたことです。ロシアの侵攻によって大切な家族が引き離されてしまう。そのうえ、お父さんは命の危険にさらされてしまっている、という状況はどんなに辛くて悲しいものなのか、想像するだけで苦しくなりました。ニュースを見ると、ウクライナ側とロシア側のそれぞれの意見が食い違っているように見えます。昔のように「戦争」という方法ではなく、話し合いなどで解決、和解できるような時代だからこそ、戦争ではなくて、話し合っ互いを理解しようとする姿勢と冷静さが大切だと思いました。

題名 今日ある日本の平和について考えること。

鹿沼市立加蘇中学校 (氏名) 大貫 葵生

今日ある日本の平和は、終戦してから引き継がれてきたものではなく、人々が平和な日本でありたい、戦争はしてはいけないと願い、努力したからこそ守られてきたのだと思います。しかし、最近は、ウクライナ侵攻や北朝鮮のミサイル発射実験などで世界的にも、日本にも、緊張した状態が続いていると感じます。平和は一瞬にしてなくなってしまう恐れがあるものだからこそ、今を生きる私たちが、平和を守るために行動をしていかなければいけないと思いました。私たちの平和への思いをどんどん周りの人に伝えて、認識してもらい、これからの平和を守っていけるようにしたいです。

題名 あなたにとって「平和な社会」とは何か、「平和な社会」を実現するために必要なこと。

鹿沼市立加蘇中学校 (氏名) 大貫 葵生

私にとって平和な社会とは、家族や友達と話して笑い合ったり、明日は何をしようかと考えられたりすることが、みんな同じようにできることです。近年は、誹謗中傷やいじめなどで自ら命を絶ってしまう人が増えています。そのような悲しいことが起きないようにするためには、互いが相手のことを思いやって違いを認め、尊重し合うことが大切だと思います。違いを認め合えれば「対立して仲が悪くなること」はなくなり、互いを思いやればきっとよい関係を築いていけるのではないのでしょうか。一人ひとりが思いやりの心を持ち、互いを尊重しあえば、みんなの笑顔と夢や希望があふれる「平和な社会」になると思います。